国 語

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

日本の職場慣行だった「出産退職」が減り、「出産後も就業継続」する女性は「退職」を上まわるようになった。若い世代では、子どもが生まれても仕事を辞めず、育休を取って職場^アフツキする、つまり、保育所を子育ての初期から利用して、育児と仕事を両立するライフスタイルが主流になりつつあるといえる。

子育て家庭の変化は、保育所の役割も変えつつある。保育所は単なる託児の施設ではなく、育児のスタート期から子育て家庭に伴走し、親としての成長をサポートしつつ、子どもの人生の最も初期から成長や発達にかかわる。家族に大きな影響を及ぼす専門的な機関であり、子どもと親への総合的な支援拠点として、高い機能が求められるようになっていく。

ところが、こうした子育て家庭のニーズの変化が、保育行政を担う市区町村には十分に浸透していない状況が、取材を通して見えてくる。

特に、若い世代のライフスタイルの変化が早く現れる首都圏で、このギャップは鮮明になっていると感じる。とりわけ二〇一五年は、四月に新しい少子化対策として新制度が始まり、八月には「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」が成立。一〇月には「一億総活躍社会」や「希望出生率一・八」の実現が国から打ち出された。

少子化対策の看板政策となった新制度で「待機児童解消」が掲げられた^aことで、子育て世代の期待値が急速に高まっていた。そのことが結果として、旧態の保育行政を続けた市区町村との温度差を一気に拡大していた。

「保育難民」^イとなった若い父母の悲痛さは、取材するこちらの胸をシめつけるほどだった。

妊娠中から子どもを保育所に入れるための「保活」を始め、保育所見学や情報収集に奔走したのに入れる先が見つからず、不安と疲れから切迫早産になった女性。

認可保育所に入れず、やむなく認可外のミニ保育室に預けたものの、子どもの表情が暗く、質の高い保育所に移るため転職しようか、転居しようかと悩み続けていた母親。

東京の有名ブランドでデザイナーとして働いたため来日したのに、保育所に入れず失職の危機に青ざめていた英国人の女性もいた。抗議集会に参加して、「日本は今も二〇世紀なのかと、英国の家族が驚いている」と訴えていた。

日本の保育制度が「二〇世紀のまま」といわれるのは、海外からの一方的なヘンケン^ウではない。戦後直後に作られた保育制度の骨格が昭和モデルのまま温存されているためであり、英国やフランス、北欧などには存在しない待機児童問題が、日本ではいつまでもなくなる理由もここにある。

二〇世紀の保育制度は、英国などでも、保育サービスが貧困家庭の母親が働くための福祉施策とされ、税金で運営される措置制度だった。税金を投入する救貧福祉であるため、行政は利用する資格の有無を厳しく判別し、希望者すべてにサービスを給付するわけではなかった。

しかし、主要な福祉国家の多くでは今、保育制度に多額の税金を引き続き投入しているもの、利用する家庭の意向を尊重する利用者本位の仕組みに転換している。保育サービスは選別主義の措置制度ではなく、希望するすべての家庭が利用できる普遍主義の制度になっている。

希望しても利用できない待機児童がこれほど発生するのは、措置制度ゆえの構造的な問題であり、「二〇世紀のまま」だからといえる。

選別主義を **X** するのが、保育所の利用者をふり落とす「利用調整」という仕組みだ。

I 自治体は、保育サービスを利用させるべき家庭を選びわけるため、保育の必要性を数値化した「利用調整指数表」を作り、内部で活用していた。「フルタイム勤務の共働き」「一人親」「保護者の疾病」などの条件ごとに点数を定めて、総合点が基準を上まわる家庭に利用を認める。保育サービスが不足する地域では、総合点の高い家庭を優先的に入所させる。そうした選別の基準として活用してきた。

ところが、落選理由の説明を求める人が増え、議員のクチキきなど不透明な調整への不信や批判も強まり、多くの自治体が利用調整指数表を公表するようになった。このため、待機児童がいる地域で認可保育所に入りたい家庭はまず、地元の市区町村が作る利用調整指数表を手に入れて、自分たち世帯の点数を計算しつつ、「保活」を進めるようになっていく。

入りたい保育所を調べて申請するだけでは入れないため、世帯の持ち点をどうしたらアップできるかの画策も必要となり、首都圏の「保活」はいまや激しい情報戦のヨウソウを呈している。

「利用調整指数表を見ると、一人親世帯などを除くと、保育所は全体として恵まれた家庭が入れる仕組みになっている印象です。でも、保育制度はそれでいいのでしょうか？」

孤立や生活困難などの課題を抱えた若者を支援してきた臨床心理士のある女性は、自身の「保活」を振り返り、疑問を呈す。福祉行政にセイツウした困窮者支援のプロでも、困惑することが多かったという。

自治体がおこなう利用調整では「基準指数」と「調整指数」という保育制度に特有の **Y** が使われる。「基準指数」とは、就労状態や健康状態といった世帯の基本的な状態を数値化した点数。それに対し、きょうだいが希望している保育所にすでに通っている、無認可保育所の利用実績があるなど、個別状況で加点や減点をするのが「調整指数」だ。

その女性の世帯は、基準指数がフルタイム勤務の夫は二〇点、法人理事とフリーランスの仕事をする女性自身は一八点で計三八点だった。ただ、居住している自治体には待機児童がいて、認可保育所に入る最低ラインは四〇点ほどだったため、この女性の子どもは届かなかった。「両親とも正社員でフルタイム勤務」がセンテイで、フリーランスなどは減点になるとわかった。「フリー

ランスなどの多様な働き方に、保育制度は対応していない」のである。

調整指数で点数をアップさせることが必要だったが、「長く居住した世帯は加点」「祖父母が同居だと減点」といった加点の基準は自治体ごと、年度ごとに違う。地元での情報収集が重要なことを痛感したという。

情報収集の結果、「調整指数で加算するには二つの方法があった」とこの女性は言う。一つは、育児を早く切り上げて認可外の施設に子どもを預けること。地元の自治体では一日四時間以上、月二日以上保育利用の実績が半年以上あれば「二点」が加算された。もう一つは「偽装離婚」。戸籍上、離婚して一人親の状態になれば「二点」が加算される。認可外の施設を月七万〜一〇万円ほども払って使うより、安上がりな方法だ。

「偽装離婚までする人たちもいると聞いたが、そういうわけにもいかない。困窮し、孤立している人たちにはこういう情報も入らない。利用調整の複雑な仕組みを理解するのも大変。専業主婦や非正規で働く人が利用したくてもハードルは高い。マニアックな手法で点数をカセぐ『保活』は、本当に困っている人たちを排除する仕組みになっています」

結局、この女性は認可外保育所が階下にあるチンタイマンションに移り、保育料は割高でもそこを利用することにした。

Ⅱ、保育が明らかに必要なのに門前払いされるケースも見えてきた。

妻を病気で亡くした友人は、二人の子どもを育てるシングルファーザーになった。働く必要があるのは明らかなのに、二人とも年度途中で空きがなく、認可保育所に入れなかった。下の子は何とか認可外のミニ保育室に入ることができて、上の子は幼稚園に入れたが、幼稚園はおムカエ時間が午後五時と早い。ミニ保育室は、泥遊びなどができる園庭もなく、保育環境が貧弱だった。彼は不安を抱えて苦悩していた。

実家に頼れない若い女性がシングルマザーになると、認可保育所に入れない場合、「託児所付き」の勤務条件に惹かれて風俗店に勤めてしまうケースが少なくないという。

「保育の必要な人がちゃんと入れるなら、保育所は子どものいる困窮家庭への支援策にもなるのに」と、女性は話す。

保育所の門戸が狭く、「保活」が厳しい情報戦となっている現実。なかでも東京都は、仕事やチャンスを求める若者を全国から吸い寄せながら、待機児童が多発し、保育問題が最も深刻な「超少子化の街」となっている。

（榎原智子『孤独な育児』のない社会へ——未来を拓く保育』による。著作権の都合上、一部改変）

問1 二重傍線部ア～コのカタカナを漢字に改めよ。(楷書で記すこと。)

ア	フツキ	1
イ	シメ	2
ウ	ヘンケン	3
エ	クチキキ	4
オ	ヨウソウ	5
カ	セイツウ	6
キ	ゼンテイ	7
ク	カセグ	8
ケ	チンタイ	9
コ	ムカえ	10

問2 傍線部a～cの漢字の読みをひらがなで記せ。

a	掲げられた	11
b	疾病	12
c	門戸	13

問3 空欄Ⅰ・Ⅱに入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度選ばないこと。 I 14・II 15

- ① 一方 ② もちろん ③ こうして ④ もともと ⑤ それゆえ

問4 空欄X・Yに入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

X	16	・	Y	17	
X	① 代弁	② 標榜 ^{ひょうぼう}	③ 象徴	④ 検証	⑤ 死守
Y	① 線引き	② 物差し	③ 名簿	④ 裏付け	⑤ 目標値

問5 傍線部A「このギャップ」とあるが、どのようなものか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 18

- ① 出産後も退職せず、保育所を利用しながら育児と仕事を両立しようとする女性の要望と、子育ては家庭で行うのが本来のあり方とする自治体とのずれ。
- ② 出産後の女性が子育てに専念していたかつての若い世代の意識と、出産後も保育所を利用して育児と仕事を両立しようとする現在の若い世代との違い。
- ③ 出産後も仕事を続け、保育所の支援を得ながら育児と仕事の両立をめざす若い世代の意識と、行政として保育所の利用調整を行う自治体のあり方との食い違い。
- ④ 仕事と育児を両立する家庭への支援を自治体に望む若い世代の要望と、親に代わって保育を必要とする子どもへの支援を重視する自治体との隔たり。
- ⑤ 出産後も保育所に子どもを預け、仕事を続けようとする子育て家庭と、少子化対策として女性の社会的活躍を推進する制度を始めた国との不一致。

問6 傍線部B「英国やフランス、北欧などには存在しない待機児童問題が、日本ではいつまでもなくならない」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 19

- ① 財政が豊かな主要国では、あらゆる希望者が保育サービスを利用できる普遍主義の制度になっているが、日本では財政上の理由で選別主義の制度を温存しているから。
- ② ヨーロッパの主要な国々では、保育制度に多額の税金を投入して整備を進めているが、日本では税金を投入する政策を厳しく選別する制度が続けられているから。
- ③ 主要な福祉国家の多くでは、希望者全員が利用できるほど保育所が数多く整備されているが、日本では選別された少数の優れた家庭に対応する規模にとどめているから。
- ④ 福祉が進んだ主要国では、希望者全員が保育サービスを利用できる普遍主義の制度となっているが、日本では希望者を厳しく選別する旧態依然の制度のままだから。
- ⑤ 多くの福祉国家では、保育を希望する利用者本位の普遍主義を骨格に保育制度が始まったが、日本では希望者を厳しく選別する旧来の制度が変わらないままだから。

問7 傍線部C「世帯の持ち点をどうしたらアップできるかの画策も必要」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 20

① 「保活」して希望する保育所を申請する家庭は、利用調整指数表の点数が足りない場合は、地域の議員や有力者への働きかけもやむを得ないことがあるということ。

② 「保活」を行う人々は、利用調整指数表を入手して情報を集め、競って自らが有利になる方策を立て、周到に計画を練って実行せざるを得ない状況にあるということ。

③ 「保活」を始める人々は、まず利用調整指数表を入手した情報に照らして、自分の世帯が利用できるかを入念に検討し、慎重に申請しなければならぬということ。

④ 「保活」を行う人々は、出産や仕事について入念な計画を立てて進めるが、結局は利用調整指数表で計算した点数が高い世帯だけが保育所を利用できるということ。

⑤ 「保活」を進める家庭は、まず利用調整指数表を入手して自分たちの持ち点を計算し、どこの保育所であれば利用できるかを十分に調査する必要があるということ。

問8 傍線部D「『保活』は、本当に困っている人たちを排除する仕組みになっています」とあるが、なぜこのように述べるのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 21

① 保育所を利用したくても正規就労ではない働き方では難しく、その利用条件を満たす情報を理解して策を講じた家庭だけが入れられる制度に構造上の欠陥があるのは明らかだから。

② 働く必要があるのに、保育所を利用できるのは正規就労に限られているうえ、利用できる条件を入手して理解し、手立てを考える余裕のある家庭が有利となる風潮があるから。

③ 本当に保育所を必要とする人であっても、正規就労ではない働き方では不利になるうえに、保育サービスの経営上の観点から経済的に恵まれた家庭を優先する傾向があるから。

④ 働くために保育所を必要としても、年度途中では人数制限があるために入所できず、そのうえ就労していない人は申請できないという間口の狭い制度設計になっているから。

⑤ 保育所が必要でも、正規就労以外の多様な働き方では利用基準に届き難く、あらかむ予め複雑な利用条件を理解し対応する恵まれた家庭が入りやすいという構造的な問題があるから。

問9 傍線部E「保育の必要な人がちゃんと入れるなら、保育所は子どものいる困窮家庭への支援策にもなるのに」とあるが、本文では「保育所」についてどのように述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 22

① 保育所は単なる託児施設とは異なり、子どもの成長とともに親の成長をも支援する専門的かつ総合的な支援機関であるため、その支援を必要とする親子や家庭を正しく判別しなければならぬ。

② 保育所はもともと救貧福祉政策として制度化されたものなので、今では子育て家庭のニーズが変化したとはいえ、困窮や孤立の問題を抱えている人なら優先的に利用できることが必要である。

③ 保育所は、選別主義の措置制度ではなく、希望する家庭すべてが利用できる普遍主義の制度によって運営されており、子どもと親の双方の成長を支援する重要な社会的機関として機能している。

④ 保育所はただの託児施設ではなく、利用者の意向を尊重して誰でも広く受け入れ、子どもだけでなく親の成長をも助ける専門的かつ総合的な支援機関として機能することが求められている。

⑤ 保育所は、仕事と子育てを両立しようとする若い世代にとって必要不可欠な施設であるが、利用調整の加点減点の仕組みによって不平等が生まれており、保育制度そのものを見直すべきである。

問10 本文全体は内容と論の展開のしかたによって、大きく三つに分けることができる。その場合の本文の内容と構成の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

23

- ① 最初に保育行政の意識変革が遅れていることを指摘し、次に日本の保育制度に対する国際的な批判と複雑な選別の仕組みの事例について述べ、最後に保育行政から取り残された家庭の事例を挙げて実態を検証している。
- ② 最初に女性の社会進出を推進する政策の意義を説き、次にその政策を実現すべき保育行政が待機児童問題を解決していない現状を具体例とともに述べ、最後に保育を拒まれる事例を挙げて待機児童問題の重大さに言及している。
- ③ 最初に保育制度には重大な欠陥があることを指摘し、次にその原因である利用調整指数表の内容について具体例を挙げながら述べ、最後に調整指数の項目に無理に合致させる不正な事例を示して保育制度を批判している。
- ④ 最初に保育行政が今の家庭に対応していない現状を指摘し、次に原因が時代遅れといえる選別の仕組みにあることを具体例とともに説明し、最後に保育からしめだされる事例を挙げて現状の深刻さを掘り下げている。
- ⑤ 最初に女性が仕事を続けるライフスタイルへ変化したことを述べ、次に時代にそぐわない保育行政とのギャップについて具体的な事例を挙げて説明し、最後に都市部で加速する少子化の状況を事例とともに明らかにしている。

第2問

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

母を失った姫君は、父である中納言の邸ていに引き取られるが、継母まははの許もとでつらい日々を送っていた。姫君に好意を寄せていた右大臣の子息である少将は、継母の計略で、他の女性と結婚をさせられてしまっても、依然として姫君のことをあきらめきれずにいた。そのようななか、体調がすぐれない乳母めのとが、里帰りしていた乳母子である侍従じじゆうを介して、すぐにお会いしたいと伝言をしたので、姫君は見舞いに訪れる。

乳母起きて、泣く泣く聞こゆるやう、「さだめなき世と申しながら、年老いぬる者は頼み少なくはべる。常よりこの心細く、君もゆかしく、かかる心地つきぬれば、見たてまつらんことも、このたびばかりにやとおぼゆれば、母宮おはしまさざりしことをこそ悲しみ思ひつるに、この老い姥うば 亡うからんことの悲しさよ。目Aやすきやうに見えたてまつる人一人もなく、はかなくなりなば、死出の山路にまよはんことの口惜しさよ。いかになりなん跡の形見とも、侍従を御覧じさぶらへ」とて、御Bぐしかきなでて、さめざめと泣きければ、姫君も御袖を顔に押しあてて、「我も残りともまりて、たれをか頼みはべるべき。母宮の失うせたまひてそのちは、(注)それをこそ高き山深き海とも頼み思ひつるに、別れたてまつり、長らへてあるべしとおぼえず。おなじ道に」とのたまひて、人目もつつまず泣き悲しみたまへば、よその袂たもとまでもあはれにおぼえける。さてしもあるべきことならねば、帰(注)らせたまふ。「今は見Cまるらせてさぶらへば、いとど黄泉路よみぢもやすらかにこそおぼえさぶらへ」などと申させたまへば、侍従をばとどめ置きて、姫君ばかり帰(注)らせたまへり。

そののち日数経ふるほどに、日にしたがひて悩iみまさりけり。五月晦みそか日ひごろに、つひにはかなくなりたまふ。姫君の嘆なげきたまふことなのめならず。侍従が嘆なげき、なかなが申まをすもおろかなり。姫君は、乳母の別れ、侍従に 離れたまひぬれば、いとどせんう方かたなう、頼りなくおぼしめしけり。また侍従は、母の別れの悲しさといひ、姫君の御つれづれ思ひつつ、明かし暮らし過ぎけり。(注)のちの営いみ、しかるべきさまにまかなひはべりけり。姫君、常(注)に着アたまへる桂けい一襲ひとすゐ、侍従がもとへつかはすとて、

イ 唐衣たうい死出の山路をたづねつつ我育わたくしみし袖をこそやれ

かやうに褌(注)に書きつけて、送おくりたまへり。これを見て、顔iiにあて、人目もつつまず悲しみけり。

とかく営いみはべるほどに、七月十日になりければ、姫君の御もとに参りたりけるに、二十日余りの秋、いとあはれなるに、月えさやけかりければ、はかなきことどもを語り、「乳母に おくれぬる心細こまさよ」などと言ひつづけて、格子ウも降くだろさずながめたまふほどに、夜うち更けて、少将内裏エより帰かへりたまひけるが、忍しのびて西の対たいの妻戸つまどに立ちたまへるほどに、侍従が声のほかに聞きこえければ、うれしくおぼして聞ききたまふに、姫君琴ことかき鳴ならし、乳母のこと言いひ出いだして

うち泣きたまふ気色、あはれに聞きはべり、かき抱きてや出でましと思ひたまひけれども、中納言のおぼさんこともつつましさに、思ひ立ちたまはず。夜もいたく更けぬれば、姫君も立ち入らせたまひぬ。

少将、立部をうちたたきたまへり。侍従、あやしと思ひて見れば、少将立ちたまへり。「いかに」と聞こゆれば、「物思ふは悲しきことと、このほどこそ思ひ知りはべれ」と言へば、「さこそとおぼしけぬ。いかばかりか御嘆きさぶらひけん」とて、「このほどは、それに□おはせざりつれば、心の闇にまよひて、いと心苦しくてなん。もし、通ひ参りてぞおはすらんと思ひて、参りさぶらひつるに、いどうれしくもはべるべきに、また今夜の月は隈なきを、疾く入らせたまふらん」とて、

E 「かくばかりさやかに照らす秋の夜の月よりさきに入る人ぞ憂き

入る山の端のつらくなりなんと聞こえたまへ」とのたまへば、侍従、かくと聞こえければ、さすがにあはれとおぼす。

〔『住吉物語』による〕

(注) それをこそ高き山、深き海とも頼み思ひつるに——「高き山、深き海」は、親の恩の大きさのたとえ。「それ」は、

あなたの意。

黄泉路——死後の世界。あの世。

のちの営み——死後の法要。

常に着たまへる桂一襲、侍従がもとへつかはす——着ならした衣服を贈ることは、魂を添えたことになるという考え方による。

袂——衣服の裾の左右両端の部分。

立部——格子を取り付けた板戸を廂の外や室外に立てかけて風よけなどに用いる。

問1 傍線部ア～エの古語の読みを、現代仮名遣いを用いてひらがなで記せ。ただし、エは二字で答えること。

ア	桂	24
イ	唐衣	25
ウ	格子	26
エ	内裏	27

問2 波線部あ～おの語句の本文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

あ いとど

28

- ① たいへん
- ② ますます
- ③ かえって
- ④ まさしく
- ⑤ あまりにも

い なかなか

29

- ① 予想外に
- ② ぼんやり
- ③ 正直に
- ④ ときどき
- ⑤ とうてい

う せん方なう

30

- ① もの寂しく
- ② ふがいなく
- ③ 気に入らなく
- ④ どうしようもなく
- ⑤ つまらなく

え さやけかり

31

- ① 澄みきって
- ② 隠れて
- ③ たいしたことがなくて
- ④ なつかしくて
- ⑤ 傾いて

お つつましさに

32

- ① 興ざめなので
- ② 不愉快なので
- ③ 遠慮されるので
- ④ 気がかりなので
- ⑤ 不都合なので

問3 本文中の四か所の空欄□には全て同じ助詞が入る。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 33

- ① だに
- ② のみ
- ③ さへ
- ④ ばかり
- ⑤ しも

問4 二重傍線部 i～iii の動作の主体として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

- i 悩みまさりけり
 - ii 悲しみけり
 - iii 思ひ立ちたまはず
- ① 姫君
 - ② 乳母
 - ③ 侍従
 - ④ 少将
 - ⑤ 中納言

問5 二重傍線部 a「る」の文法的意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 過去
- ② 尊敬
- ③ 可能
- ④ 自発
- ⑤ 完了

問6 傍線部A「目やすきやうに見えたてまつる人一人もなくて、はかなくなりなば、死出の山路にまよはんことの口惜しさよ。いかになりなん跡の形見とも、侍従を御覧じさぶらへ」の表現や語句の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 38

① 「目やすきやうに見えたてまつる人一人もなくて」とは、姫君ほど美しい女性は他にはいないということである。

② 「はかなくなりなば」の「な」は打消を表し、「死にたくないならば」という意である。

③ 「死出の山路にまよはんことの口惜しさよ」とは、姫君を残して死ぬことが気がかりであるという乳母の心情を表している。

④ 「いかになりなん」の「なん」は係助詞で、ここは結びが消滅している。

⑤ 「侍従を御覧じさぶらへ」とは、侍従に対して、乳母の死後は姫君の世話をしてほしいという乳母の願いを表している。

問7 傍線部B「たれをか頼みはべるべき」とあるが、この心情の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 39

① きつと誰かが助けてくれるに違いないという期待。

② 誰かをあてにして生きて行くつもりはないという決意。

③ 自分をあてにする人が誰かいるかもしれないという期待。

④ 乳母以外にあてにできる人など誰もいないという不安。

⑤ 信じることのできる人など誰もいないという諦念。

問8 傍線部C・Dの解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。

- C さてももあるべきことならねば 40
- ① 大勢の人がいつまでもいるべきではないので
 - ② そのままの状態できてよいことでもないの
 - ③ いつまでもそこにいたいと思わないので
 - ④ のんびり構えていてよいわけでもないの
 - ⑤ ほかの人々も見舞いに訪れそうな様子なので

D かき抱きてや出でまし 41

- ① 抱きかかえて出でしまったよ
- ② 抱きかかえて出でしまおうか
- ③ 抱きかかえても出られないだろう
- ④ 抱きかかえて出る方がよい
- ⑤ 抱きかかえて出られるだろうか

問9 傍線部E「入る山の端のつらくなりなんと聞こえたまへ」とあるが、このときの少将の心情の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 42

- ① 姫君を月、姫君が戻る部屋の間仕切りを山の端にたとえ、彼女にまったく相手にされない自身の境遇がとてつらいと思っている。
- ② 姫君を月、少将自身を山の端にたとえ、乳母を亡くした姫君のつらさが少しでも和らぐように彼女を守ってあげたいと思っている。
- ③ 姫君を月、姫君が戻る部屋の間仕切りを山の端にたとえ、月の明るい夜にすぐに部屋の中に戻ってしまった姫君の行動を寂しいと思っている。
- ④ 少将自身を山の端、姫君を月にたとえ、乳母を亡くした姫君にどう声をかけてあげればよいかわからず情けないと思っている。
- ⑤ 姫君を山の端、少将自身を月にたとえ、やっと姫君と結ばれそうな状況になりとても嬉しいと思っている。

問10 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

43

- ① 乳母は、自分が先に死んでも希望を失ってはいけなと姫君を諭していた。
- ② 侍従は、母である乳母の法要を終えたので、再び姫君の許に帰参した。
- ③ 姫君は、侍従から少将からの歌を伝えられて、人目もはばからず泣き出した。
- ④ 少将は、侍従に姫君との対面を断られてしまい、失意のまま邸を後にした。
- ⑤ 姫君の亡き母宮は、姫君を残して先に死ぬことを最後まで悔やんでいた。

(国語の問題は終わり)